

《発行所》

青山同窓会  
〒951-8127 新潟市関屋下川原町2-635  
新潟県立新潟高等学校内  
TEL 025-266-5268  
FAX 025-266-5268  
《編集、発行人》  
上村光司  
《印刷所》  
オリオン印刷 ㈱  
〒950-0963 新潟市南出来島1-19-1  
TEL 025-283-2151  
FAX 025-283-3804

「あいさつ」

青山同窓会会長 50回 上村光司



盛夏を迎えます。いま母校は本館に向かって左手、プールとテニスコートがあったあたりに、体育館の建設が着々と進んでいて、新校舎の全容がはっきりして来ました。創立百十周年事業の募金について各位にお願いして来ましたが、ご協力により六月末で二千万円に達しました。ただし目標額二千五百万円にはまだ距離があり、時節が恐縮ですが、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

ところで新潟の梅雨は、六月末まではあまり降らないはずでしたが、今年のはっきりした梅雨入りで、例年はお天気の心配が少なかった青陵祭（六月十一日）が、雨が尾を引く中で決行ということになりました。しかし在校の後輩たちは、泥んこのグラウンドも何のその。青春を爆発させていました。その梅雨空、四日後に中休みになりましたが、「五月晴」の本来の意味を思い出させる、嬉しい青空でした。

お天気といえば、日本経済の天気図も、回復の足どりが確かなったようで、嬉しいことです。これが梅雨の中休みでなく、梅雨明けになるように期待しています。近ごろはアクセルとブレーキを一緒に踏ませるような講釈が幅をきかせていますが、病いは気からとも言うではありませんか。同窓各位の動静を新聞やテレビで拝見することが多く、心強く、ありがたく、いっそうご活躍のほどお祈りいたします。

「あいさつ」



平成十二年三月三十一日をもって公立高等学校での三十八年間

吉田六也もん氏 再選を果す



去る六月二十五日に投票が行われた第四十二回衆議院議員選挙においてわが青山66回卒の吉田六左エ門氏が小選挙区新潟一区で当選した。三年八月前の初当選に続く二期連続の再選である。

選挙期間中は前回同様の辻

立ちの姿も見られ、「元氣だせ新潟」のポスターの下、手堅く票をまとめた。

当選直後には「選挙中の約束である、でっかい声で、しゅうしがらず、景気回復に身を粉にして努めることを誓います」と決意を表明していた。

国政の場における郷土の、そして母校の、代表としてこれまで以上に期待していきたい。

前校長 青木一男

の教員生活を終え無事卒業させていただきました。最後の二年間は、母校、新潟高校の校長として勤めさせていただけたことは、私の人生にとって本当に幸せだったと感謝いたしております。

御鞭撻をいただきまして厚くお礼申し上げます。四月からは新潟明訓高校に勤務しておりますが、今後とも御指導の程よろしくお願ひいたします。

思えば、新潟中央高校、新潟江南高校教諭を皮切りに、佐渡高校、新発田高校の教頭、津川高校、新潟中央高校、新潟高校の校長、行政では高等学校教育課の指導主事、参事、県立教育センター所長と多くの体験をさせていただきました。その一つ

次に、新潟中央高校では、保育科の閉科、附属幼稚園の閉園、音楽科の開設という仕事を受けました。ここでは二年間、附属幼稚園長として園児と楽しく遊ぶことができましたが、閉科、閉園式典では、時代の流

に周年行事等との巡り合わせがあります。昭和六十一年に教頭として赴任した佐渡高校は明治二十九年の創立で、同年に九十周年を迎えるということで着任早々、準備を始めました。実行委員会を中心に、式典、記念事業、祝賀会等について検討を始めました。この当時、国旗掲揚については特に問題はありませんでした。国家斉唱には反対の職員もおり、同窓会を中心とした実行委員会の決定であるとして、式次第の中に国家斉唱と大書して無事終えることができました。

れとはいえ哀惜の念を禁じえませんでした。また、平成十二年に創立百周年を迎えるというこゝとで準備していましたが、途中で異動となりました。本年十月二十七日(金)に盛大に記念式典が挙行される運びとなっております。

最後の新潟高校では着任早々、通信制の五十周年があり、七月に記念式典、祝賀会、そして翌年一月には記念誌を発刊して無事終わりました。また、県高等学校長協会でもありましたので、県高校長協会が平成十一年

## 新任のごあいさつ

学校長 宮沢 稔



この四月、本校に着任いたしました。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて、四月十日の入学式で、私はまず生徒諸君に、「啐啄同時」について話しました。啐とは、卵から雛がかえるとき、親鳥が卵の殻をつつくこと、啄とは雛が内側から卵の殻をつつく

に創立五十周年を迎えるに当たり、県高等学校長OB会の御理解、御協力をいただいて、記念式典、記念講演、記念祝賀会を開催し、平成十二年三月に会誌三十号を五十周年記念号として発刊し、無事終了しています。母校も平成十四年には創立百周年を迎えるということで準備を始めたところで新潟明訓高校への異動であります。当校も平成十三年には八十周年を迎えます。まだまだ周年行事とは縁があるようです。

ことをいい、雛と親鳥の行動が一致したとき、卵の殻が割れ新しい生命が誕生する、これこそ教育の原点である。私たち教職員もがんばるが、諸君もがんばってほしいと呼びかけました。

次に、一芸に秀でるためには五千ないし一万時間をかけなければならぬというある心理学者の説を紹介し、文武両道をめざす本校では、自分の希望を達成するには人一倍の努力が求められるだろうが、チャレンジ精神をもって邁進してほしいと励ましました。

また、これからの人生をどう生きるか、将来の進路や職業をどうするか、自分自身をじっくりと見つめる「自分探し」をするよう呼びかけました。

この「自分探し」に関連して、私自身のことを少し述べさせていただきます。私が教師になりたいと思ったのは、「子どもが好き」という本当に単純な思いからです。しかし、本気で教師になろうという気になったのは、高校二年生のある冬の日、中学時代の担任だったI先生を訪ねてからのことでした。

女関の戸を開けると、あいにく先客がありましたので、遠慮して去ろうとすると、「お前も上げれ」との声。おそろおそろ上がる、先生と二人の親ごさんが炬燵で静かに酒をくみかわしていました。先生は、「今度転勤することになったんで、山の分校時代の親ごさんが来てくれたんだ」とうれしそうに話してくれました。私が何とも言えない感動を受けたのは、それから間もなくしてからのことでした。

三人はほとんど何もしゃべらずに、ただ黙々と酒をくみかわしているだけでした。時々、思い出したように、親ごさんの方からとつとつと「お前さんは、いい先生だった」と言い、先生

が「いや、ほんとうに世話になった」と応じていました。……会話はこれだけでした。

一時間ほどしておいとましましたが、私は雪道を歩きながら、I先生のようになりたいと真底から思ったのでした。あの日の光景は、今も遠い日の夢のように思い出されます。

ところで、「空気による教育」ということが言われることがあります。漠然と分かったような気がおりましたが、本校で三か月近く過ごす中で、その意味がはつきりとしてきたように感じます。人の精神をはぐくむ目に見えない雰囲気、学校なら校風といわれるものが、教育にとって思いのほか大きな影響力をもっていると言われます。この校風が、よきにつけあしきにつけ消

えようとしており、その学校の特色とか個性というものが感じられなくなってきたり、本校は、こういう風潮の中で、その校風を今に伝えてきている数少ない学校のひとつといえると思います。

いかに時代が変わろうとも、新潟高校を新潟高校たらしめている校風を受けつぎ伝えていくのは、そのときどきの学校であり生徒でありますが、それを側面から支えている同窓会の果たしている役割は誠に大きいものがあると考えております。その意味で、青山同窓会並びに同窓各位に対し、心から敬意と感謝の念を表しますとともに、今後とも一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます、ごあいさつとさせていただきます。

今年は六月二三日に行われまして。これは新潟から参加した担任教師たちには特筆すべき意味があります。それは従来この会が行われていた六月の第二金曜日は毎年青陵祭の直前に当たり忙しい思いをしていたからです。特に今年は、担任団の学年主任であった石崎先生が三八年間で初めて参加することができ

ました。いろいろな要素があるでしょうが今回に関してはありがたいことでした。会場は紀尾井町ホテルニューオータニ。三年目になります。格調高い会場にたどりつくとなぜかほっとした気持ちになりました。昨年と同じ梅雨空で、赤坂見附の地下鉄の駅を出た空が新潟にはない、天然のものとは

思えない鉛色でした。会はずん同様きびきびとした進行。栗林会長の変わらぬ細やかなり心配りが至る所で感じられました。第一部・第二部共に司会者に若い105回卒の柳通さん・藤田君を登用、初々しさ

## 東京青山同窓会新人歓迎会

講演は前東京高等検察庁検事長の村山弘義さんで、冒頭ご自分の開設した法律事務所を「青陵法律事務所」としたこと了解を求めておられました。講に激励されておいででした。講演内容は刑事司法制度の課題、で日本が国際的にどうかという観点から①低い犯罪率②高い検挙率③低い起訴率④低い無罪率そして⑤刑事施設の低い利用率と、説き進められ、門外漢にも非常によく理解できるものでした。



その後齋藤伸雄名誉会長の乾杯で懇親会に入り懇談、富所強哉さんの名旧制校歌、菊池隆さんの迷新制校歌斉唱で幕となり小林副会長が閉会を宣言ししました。

いぶん多かったのでトータルとしては良かったと思います。後は私自身が時間を気にせず二次会に行っていたら完璧、ということでした。

(校内幹事 69回 山田 栄)

今年卒業の新人がもう数多く来られてもよかったですかという感じはありましたが、来ていた彼らに聞けば二次会から参加予定の者もいるとか。その代わりに「少し古い新人」が



## 「うちたもし」に見る 薩摩隼人の気概

55回 早福 卓

昭和十九年十月、第三学年二学期が始った九月に「県民修練」の対象者と云う事で各クラスから集められた四十五名が西蒲原郡味方村吉江の高念寺を宿にして「晴耕雨読」の心身鍛練の合宿生活を命ぜられた。期間は五十日間。

今でも選衡の基準について知らない僕である。家に帰って母親に布団、寝巻、茶碗と丼、箸、洗面具、着替えの下着を揃えて貰って荷造り電鉄の県庁前駅より七穂駅留で送った。

吉江の高念寺迄は木村普先生の手配で用意された牛車で届けられた。食事は庫里。布団を敷いて寝る場所は本堂だ。終戦の時島田知事の強力爆弾投下からの退避命令で新潟中学校が貴重品を疎開させたのも高念寺であった。高念寺は木村晋先生の生家の関係で本校は何かとこのお寺に助けられていた。52回生の彰恩住職は講道会柔道八段だが父上の知恩さんも五段位の腕前だった。この知恩住職も青山同窓会員であるが、明治三十七年、八年の「日露戦争」直後の富国強

兵で世界の列国と肩を並べようと国威昂揚の時代を背景に、新潟市史と云うより全国的な大事業として今でも歴史に残るのが新中、新商、師範学校で争われた「ボート競技」の三校レース優勝旗争奪戦争である。知恩住職は銃器庫から、天皇陛下から貸与されている歩兵銃を持ち出し、着剣をして新潟商業学校に突入したのだそうだ。着剣して突入した生徒の中でも最も勇敢に先頭を切って突撃をした功績で、折角親の期待と味方村の名誉を担って合格した学校を「放校」処分された。

下宿から学校迄の街中で、父兄と覚しき人達から挨拶をされる。「うちたもし」と。初めのうちには鹿兒島弁では「おはよう」を「うちたもし」と云うのか位に思っていたが流石に気がついてみたら「打ち給へ」即ち「うちの子が先生の教えに叛むいたら、遠慮なく打つてでも正しい事をおしえて下さい」と云う意味だと覚つたと云う。

知恩先生は高念寺の柔道畳を敷いた本堂で就寝前の「講話」としてこの話を聞かせて下さいました。

薩摩隼人は一朝にして成らず。親が吾が子を鍛えて下さいと挨拶代りに先生に頼み込む。この日常生活の絆が「九州男児薩摩隼人」を育てていると、心を打たれたと講話をしてくれた。

私は中高一貫教育の再現を願う。それは私共の時代、入学してそれぞれの部の勧誘をうけて属した部の五年生から「三年生の夏休みが終る迄は運動部の練習が最優先だ。進学の為の勉強は二学期からで間に合う」と口を酢ばくして叩きこまれたものです。

一番生意気盛りの三年生。経験上からも五年生に一番睨まれて撲られたのは三年生のときだ。生徒間の関係。上下の関係の仲で順番に切磋琢磨されてこそ、人間性の涵養に繋がって行くのではないかと考へる。

撲られた上級生には今も懐しさを覚えるのは私一人ではないと想うが、如何。

毎年、二学期の中間考査を終える季節に「全校慨歎」があった。全校生が関屋競馬場の裏手の砂山に集合させられる。五年生を除いて四年生以下が二列縦隊で海に向かって整列させられる。直立不動の佩で約二時間、五年生の面々が手前勝手なガイタン演説を打ちあげる。運悪く目玉をうごかしたのを見つかったハリ倒された同級生もいた。欠礼をしたと云っては撲られ、試合に負ければ応援の仕方、つまり応援歌の声が低かったのが原因で負けたとへ理屈をつけられて撲られた。撲られる我々も「これが新中の伝統だ」位に思っていたので当り前だと我慢していた。昔は「腕力」を用ひての下級生に対する制裁はあったけれど、今どきの十七才のような「兇器」を使つての「暴力」は無かった。総て「素手」を使つての制裁が当り前。時代も移り変わるが、変つて貰ひ度くないモノもある。「教育」とは難しいものなのかも知れないが、戦前の五学年制の中等学校生活が一番最高の制度だと今尚懐かしい気持ちで憶がれている。

# 古希の五十六会 ハワイ真珠湾へ

## 56回 荒川 昭寿

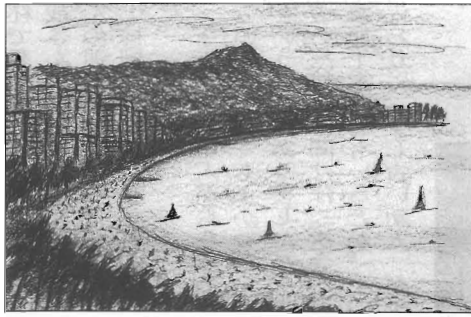
56回「いそろく会」有志で古希の記念に山本五十六ゆかりのハワイへ遠征してきました。入学時は軍国少年の真只中、真珠湾攻撃で一氣に「紅の血は燃えて」学業半ばに少年兵を志願するもの続出、それも敗色とともに駆り出されるようになり、残るものも勤労働員で工場待機、しかしいずれも戦場へ赴くまで無く戦災にもあわずに生き延びたことは幸いというべきでしょう。

復学したものの旧制四修、五卒、新制高校一期卒と散り散り

に青山を去ったため、卒業写真もなければ修学旅行も無しのままたく身も心もハングリーな毎日でしたが、なには無くとも今となつては貴重な青春時代、懐かしい同期の面々です。卒業後は一転して戦後の復興から繁栄へまっしぐらのモータリッ人生、行き過ぎてパブルとなり、弾けてリタイア、気がつけば朝の紅顔早くも日暮れ近く、昨年の総会でせめて古希の節目にみんなで海外遠征を、(トリスを飲んだわけでも無いのです)が「ハワイはどうだの声に早速

に応じた者は四十数人にもほり一時はチャーター便もの勢いでした。

しかし揃って団体旅行ができる年代は此のへんが最後では？の弱気のかげの声のとおり、血圧、持病、風邪、介護……のためと故障者が続き、結局残った選り抜き(丈夫なだけが取りえ)の一〇人、幸い旅行社の元社長中由正男プロを団長に、斉藤恒ドクターが付添い、坂井恒雄、山崎洪二両君は夫人同伴、残る荒川昭寿、石田智、片桐信哉、清水崇の四人は気楽な単身謳歌組、すっかり往年の悪坊キに戻つての最高に楽しい旅でした。時は奇しくも五十六元帥戦死から満五十六年、一月下旬冬本番の新潟を後に、ツルの翼に乗つて常夏の島ホノルル空港に舞い



ワイキキの浜辺(石田)



女子プロ並み連戦三日(清水)



戦艦ミズーリから望むアリゾナ記念館(山崎)

降りれば、常日頃の心がけのおかげで名物の雨も風もなく爽やかな、それぞれの島内観光、島巡り、ゴルフの毎日。

真珠湾ことパールハーバーへは慰霊見学組があれば、湾をめがけて礼砲白球のナイスショットの連発組もあって。

夜は、せっかくのハワイなのに、やはりおなじみ焼き肉、ラーメン、大衆酒場でオダをあげ、玲瓏の天を仰ぎつつ煌めく星座の下ワイキキの浜辺に轟けと校歌をガナリ校威を発揮しました。終りは名高いサンセット。

私たちの月例「三水会」では近年夏の遠藤昭吾店主の浜茶屋での乾杯を例としています。浜は在校時とはまるで様変わりですが、日本海の夕日は変わらず夏でも哀しい美しさです。同じ夕日ながらここワイキキでは、格別明るく陽気に暮れていきます、終りはこうありがたいもの、などと思ひながら帰ってきました。



戦艦ミズーリから望むアリゾナ記念館(山崎)

《お祝たちのひとことから》  
五十六会専用アシストガイドのVIP扱い、火山の名ガイドぶりなど勉強になった。(中由)急患を処置しJALからポールペンを貰った。鯨も見たしワイキキで泳いだ。(水泳部斉藤)

ハワイ島のゆみ子女史に惚れた(?) 火山学者の旦那仕込みの名ガイドに。ホント。(石田)

バスの女性ドライバーの運転の見事さに感心。せめてハンバーグをたべたかった。(片桐)

到着の夜手に入れたリキッドメタルドライバーの飛びは凄い。お陰でイーグルがでた。(坂井)

年の半分は島暮らしがしたい。せめて春までいたかった。来年もこよう。(清水)



ハワイ島キラウエア火口(清水)



海底に眠るアリゾナ、ミズーリの降伏文書確認。来た、見た、負けた。(子科練帰りの山崎)

女達なら夜通しでもつづくのに、殿方はいつもワッと盛り上がったもじきに高いびき、なんでもそう、どうして?(某女)

おわり



# 一月足らずで母校の 教壇から消えた男の記

50回 渋谷 武

昭和一六年八月、中学四年生の時、私は海軍兵学校を受験した。同級生のMは、海軍機関学校を受験した。この試験は、新

潟中学校の講堂に机を持ち込んで行われた。海軍の士官、下士官が、真っ白の夏服で現れて監督をした。毎日、その日の採点が行われ、次の日の受験者の名前が張り出された。最終日まで残っていたのは二〇人くらいだったろうか。Mも私も、最後の日まで残った。そして、最終日の夕方、当時の新潟地方海軍人事部の建物で、海軍人事部長の主催する晩餐会に招待された。ナイフとフォークを使う食事であった。私は初めての体験で使い方に戸惑った。

この最終日、身体検査が行われ、軍医の向後少佐が、「左肺門部呼吸延長」といったのをなぜか覚えている。

秋になって合格発表があった。Mは機関学校に合格した。私は落ちた。そして、一二月八日、米英両国と交戦状態に入ったのであった。

私にとって、もう一つの追いや

病院から退院してきた父が、「お前はやっぱり俺の子だったな」としみじみと言った。父は、高田中学の野球部の投手であった。練習の時、父の投げた球を打った、その球が校長室の窓ガラスを直撃した。窓際で本を読んでいた校長の禿頭にガラスが突き刺さったのだと言う。球を取りに行った父を、校長はカンカンになって、怒鳴った挙げ句、修身内になったのだと、うれしそうに言った。

四年の三学期に新潟高等学校の文科を受験して落ちた。そして五年の時には、鉄道病院の医師に、肋膜炎の診断を受けて、一学期休んだ。通知票では、番外であった。だが、二学期の成績は、一学期と三学期の平均の七割の成績をつけて貰ったおかげで、卒業させて貰った。鉄道病院の医師は、

「レントゲンで検査しても影が残っていないから、風邪にしておくぞ」と言って、新潟高等学校の受験の時の身体検査の診断書をくれた。これは入試の最後の口頭試問の時、若い先生から、

「うそを言っても判るぞ。結核で休んだらどう？」と言われた。

「風邪でも長く休むことはあるよなあ」と年取った方の先生が言われた。その年、文科甲類に入れて貰った。理科を受けると周りの人々からは言われたのだが、技術士官や、軍医になれる道を選ぶことに抵抗があつて文科へ入った。入学して、運動部に入らなければならぬので、どこか部にしようかとグラウンド部の活動を見ていたところが、寝ころんで銃を構えている部があった。肋膜炎の後だから無理はよくない。これだとばかりこの射撃部に入部した。ところが、世の中は甘くなかった。部の顧問が教練の教官であった。

「今や戦局は厳しい、射撃の後には突撃がある。銃剣術が必要だ」

と、射撃部がいつの間にか銃剣術部になってしまった。一年の終わりに昇段試合に出るといわれて半ば強制的に受けさせられた。この時、審判が、我が家の隣の隣りにおられた、新中の剣道の先生の高橋先生であった。

「勝負一本、初め」

「それまで」

「私は海軍記念日に生まれましてから、海軍へ行きます」

「生まれたい日は関係ない。新発田だ」

どうしてあんなったのか、徴兵官は意地でも新発田へ入れる気であったのだから。余り長引くので、次の男が中を覗いた。と、徴兵官は、

「一〇月一日新発田第一六連隊入隊。よし。次」

「今日、全員を集めて講評があった。その終わりに。」

「洪谷前へ出る」

「皆、入営の日まで訓練してくるよう」

問もなく第二期飛行専修海軍予備生徒の募集があった。八月一〇日、三重海軍航空隊に入隊した。我々の訓練は、グライダーの滑空訓練が主であった。その年の暮れだったように思う。霞

「今から洪谷が直突の模範を示す。皆よく見る。初め」

こうなつてはやくとぞであった。大声をあげて五本ほど続けて直突をした。

「皆、入営の日まで訓練してくるよう」

問もなく第二期飛行専修海軍予備生徒の募集があった。八月一〇日、三重海軍航空隊に入隊した。我々の訓練は、グライダーの滑空訓練が主であった。その年の暮れだったように思う。霞

ケ浦の航空隊から、人相、骨相、手相を見る人がやってきて、操縦と偵察に振り分けられた。私は偵察に廻された。操縦はグライダー訓練がさらに続けられ、我々は横須賀の海軍通信学校で、暗号解読の訓練を受けて、各地の実施部隊に配属された。私は、静岡県の藤枝にあった東海空司令部に配属になった。そして、ポツダム宣言受諾のいわゆる玉音放送を聞いたのである。

九月の初めには復員になって新潟へ帰った。そして、万代橋の上で、Mの父上にお会いした。「渋谷君。あんた、海兵落ちて良かったなあ。せがれは機関学校を出て、回天特攻で戦死した。軍神だ、二階級特進だと言われたが、生きていてほしかった。あんた。落ちて良かったなあ」私は、ただ黙って聞くだけだった。海軍航空隊にいたことは言わなかった。

私の網膜には、今も消えない風景が焼き付いている。あの八月一日の放送の後で、司令部が移動していた渥美湾の松林の中で、暗号書を焼いていたとき、松林の中を襦袢一枚でしどけなく紐を流しながら、わあわあ泣きながら駆けまわっていた一人の女性の姿である。

側に集まってきていた小学校の四、五年生が、

「あのおばさんの家には、〈靖国の家〉という礼が下がっていたよ。おじさんが戦死したんだ」

彼らに聞いた、

「日本は戦争に負けたんだ。どう思う？」

「戦争は終わったんだらう」

「そうだ。どう思う？」

「うれしい」

「何故だ？」

「明日から先生が帰ってきて勉強ができるもん」

先生は、男は戦場へ、女は工場へ行って、毎日、自習か、絵を描いていたと彼らは話していた。

藤枝の航空隊に赴任したとき、途中、米軍の空襲に会い、列車が遅れたため、夜遅く駅前の旅館に泊まり、夜遅いというのに、宿で用意してくれた食事をしていた我々の部屋へ入り込んできた気の狂った女性がいた。床の間に立て掛けておいた、我々の軍刀の一本を抜いて、

「一緒に死のう」と振り回した。

恋人が海軍予備学生として出征して戦死したと聞いて気が狂ったのだということであった。

ノモハン事件の前、召集された父が、仙台の陸軍病院に入れ

られた。その結果、ノモハンへは行かなかった。事件の後、一人の人が父を訪ねてきて、父の行っていた匍匐前進・後退の訓練のおかげで自分は助かったが、ほとんど全滅であったと報告していったらしい。病院に入れられる前、匍匐の訓練を見ていた部隊長が、もっと激しい訓練をやれと言ったらしかったが、父は自分の中隊は担架中隊であるとして、負傷者の担架輸送の訓練だけが続けていたのを、気が狂っていると、病院へ入れられたらしかった。だが、その父を訪ねて来た人は、生き残ったのは三人だけだったといっていたと、後で母が言っていた。

しばらくして父は行方不明になった。半年ほどたって、頭を丸めて帰ってきた。そして、以後、毎朝、般若心経の読経を死ぬまで欠かさなかった。行方不明の間、父は永平寺にこもっていたという。

昭和二〇年八月五日のポツダム宣言受諾の放送の後、

「学徒出身者は学窓に帰れ、そして祖国の再建に励め」という海軍航空隊司令の別れの言葉を受けて、復員したが、海軍にいる間に、旧制高校は二年で卒業になり、大学の法学部に入っていた。

家に帰ってすぐ、広政先生に「もう一度高校からやりなおしたい」と申し上げたところ、激しい口調で叱られた。

「自分の目の前の道はしっかりと歩め、君の前には大学生の道があるのだ」

それでもまだ気分は落ちつかなかった。私は、高田の菩提寺に和尚さんを訪ねた。子供の頃、祖父に連れられて行くとか何か可愛がってくれた和尚である。私の姿をみて、

「おお、帰られたか。お上がり」と言って、ご本尊さまの前の和尚の坐る座布団の前に座布団を置いてくれた。そして本尊さまの裏に消えて、先祖の位牌をもってきて本尊さまの前に置き、やがて読経をはじめた。

「生をあきらめ死をあきらむるは佛家一大事の因縁なり」

で始まる修証義であった。祖父は、私が海軍航空隊に入隊の日、に他界していた。香煙を追いながら、何故か心が安らぐ思いがした。広政先生が、目の前の道はしっかりと歩めと言われた言葉が素直にそうかと思えた。そして、私は大学に復学した。

二年、日本国憲法が議會を通過した。そして、二年五月に施行された。宮澤俊義先生は、

自らの制定過程への関与も含めながら、日本国憲法に関する特別講義を行われた。それは、私に大きな感動を与えた。それは、二年三月の卒業式の際、「俺の付き添いで卒業式に出れよ。ビール一杯は飲めるから」という、Wさんの誘いに乗って、自分の卒業式でもないのに出ていった。その総長告示の中で、南原繁先生は、

「大学卒業生よ、故郷へ帰れ。そこに文化の灯を灯せ」と言われた。その言葉を聞いて、ある思いが心の中を駆けめぐった。二年の中頃から、アルバイトで、大森にあったある私立の女学校の社会と英語を教えたのだが、教師になって、文化国家の建設に役立ちたいという想いであった。取得単位を調べてみたところ、旧制高校の「法制・経済」の免許状がとれることが判った。既にアルバイトの関係で東京都庁から出された、教員適格証があった。

占領下、軍国主義に関与した人物、政・財・官・軍人・教員は審査対象となって要職から追放されていた。アルバイトとはいえ、教員になるためにはこの審査を受けなければならなかった。いわゆるポツダム少尉になったが、学生と言うことで適格証は貰っていた。

文化国家の建設、平和国家の建設、その一役を担うことによつて、無念の想いを抱いて死んでいった先輩、級友、後輩の慰霊をしたと考えた。

新潟県庁には、教育部長に新潟高校の先輩がおられた。早速履歴書をもってお願いに伺った。二年の暮れ近く、河渡にあった、農業学校で憲法を教えさせてくださるという話があり、校長先生を訪ねてお願いしていた。

年が明けて、新中卒業の時のクラス主任であられた藤田先生が、家に来られて、

「学校の先生になるのなら、母校で先生になりなさい」と言われた。私は憲法を教えることよつて、平和国家、文化国家の建設に役立ちたいのだと申し上げた。

「いいようにするから私に任せなさい」と言われた。

「農学校の校長先生にお断りしない……」

と申し上げたが「それも私がいいようにするか」と言つて帰られた。

四月になって学校へ行ってみたら、時間表では、私の担当は全て英語で、日本国憲法の「に」の字もなかった。社会、公民の

字もなかった。我々の中学生の頃の学生主任をされたF先生も法学部の卒業生で英語を教えていたのだから君も我慢しなさい。と言われるのみであった。

広政先生を訪ねて、「免許証もない科目を教えるのはどうも面白くありませんが、高等学校で文科の英語の甲にいましたから、免許証は何とかなりませんか」と心臓強く伺ってみました。

「君たちのクラスでは、Tだけだ。後は、もらえる者はいない」と厳しい口調で言われた。そして、イエスベルゼンの分厚い英語の本を出して、これを読んで勉強しなさいと貸してくださいました。それを読み読み、教壇に立ちはじめたが、アルバイトの時の女学生と違って手強かった。

結局毎日授業が終わると、その日よかつたかどうか不安になって先生を訪ねては、ここはこういう質問にこう答えたがよかったのか、ここはうまく説明できなかったがどう説明すればよかったのかなどといちいち教えていただいた。広政先生は、面倒がらずにいちいち懇切に教えてくださった。

そうして二週間ほどたったと

ところで、新潟師範学校の教頭先生が、新潟高等学校の先輩の経済の先生とともに訪ねてこられ、「君は日本国憲法について、新しい知識を持っているのだから、一時間でもいいから、師範の生徒に教えてほしい」と頼まれた。早速翌日、藤田先生にその話をしたが、「勤めたばかりだからだめだ」と言われた。磯校長に直接お話ししたが、答えは同じであった。憲法を教えたくて教師を目指したのに、コマもやらせてはくれない。コマでも教えたいという思いが激しくなった。新中をやめる辞表を書いて藤田先生にやめますと言って帰ってきた。その旨、師範の教頭先生にお話ししたが、渋い顔をなさった。後で家へ来られて、

「校長は、勤めたばかりで辞表を出すようなそんな大義名分に悖る男に、将来、教師になる師範の生徒を教えさせるわけにゆかんと言われたので、話はなかったことにしてくれ」と言われた。日本全国探して廻ればどこかに口はあるだろうと、まず探しに出かけようと考えて、広政先生にイエスベルゼンの本をお返しに行つて、事情をお話

静かに言われただけだった。

ところが、師範の校長のところへ出かけていって、一体誰が大義名分に反するのか。自分の目の前の道を懸命に歩き始めていた男に誘いをかけたのは誰なのか。祖国の再建のためにと頑張ろうとしていた男をもてあそんだのは誰だと、えらい剣幕で校長に抗議をされた後で伺ったのだが。ともかく、師範学校で採用されることになった。四月末日の日付であった。だから一月も新中には勤めなかったことになったのである。

ある人は、牧歌的な時代でよかったですねと評してくれた。そうかも知れない。だとすれば、その世界を支えていたものは何であったのか。あの世界は決して、人々を選別し、差別する世界ではなかった。人々を暖かく包み込んで、育ててくれる世界だったと私は思う。特に藤田先生は、私は新中最後のクラス主任であった。新潟師範学校が新潟大学に包摂されて、私もそのスタッフの一人となったことを、誰よりも暖かく見つけてくださっていた。地労委の公益委員をしていたとき、先生が校長を勤めておられた、明訓高校の争議が起こった。その事件を担当させられたのであったが、先生の私を見る目は、いつも、芥川龍之介の

『杜子春』の閻魔様の前で杜子春を見つめていた母親のごとくであられた。その傍らに弁護士岩淵君がいたが、彼が先生の側に坐っているのが、私には、あの事件の審理に当たるときの救いであった。新中の生徒であった頃、先生が私たちに語りかけられるとき、「そうせないで、こうしたらどうじゃろか」と言われ、決してこうしろとは言われなかったのも、方法は一つではないことを論じ、私たちの自主性を重んじられていたのであったと思う。新潟大学になってから、いくつもの事件はあった。その都度「俺が自分で入り込んだ道だ」と思つて耐えることができたのも、あの一月で去つた母校の校門が、先生の顔とだぶつて浮かんできたからであつたように思う。私は新潟大学を定年で去ることとなって、先生のお宅に伺つた。先生は健康状態はよろしくなかった。女関でおいとましたが、私の顔をご覧になつて、大変喜んでくださった。あのお顔は終生忘れられるものではない。

考えてみれば、私たちの先生方は、皆、どこか暖かいものを持つていられたように思う。師の心というか、師恩というか、師徳というか、生徒を包み込んでくださるものを持つておられた。その暖かさに私たちは安心しきり、甘えていたように思う。NHKのテレビで「えんとこ」君の放送を見たが、人の厄介にならないで生きて行くことはできない以上、人様の好意には、とことんまでおぼれることが大切なのであろう。同時に人様のお世話をするときには、お世話をするという意識を持つてはならないのであろう。ただ、奉仕に徹することが大切なのである。そして、そこで奉仕されるものは、

### 五十九期新年同期会を開催

二月十一日ホテルサンルートで恒例の新年同期会が開催された。風邪の欠席者もあったが、同日ニュー越路で開催された五十九期囲碁倶楽部の第十四回囲碁大会参加者十六名を含め、三十三名が元気な顔を見せた。

同期会に先だつて囲碁大会の表彰式が行われ、佐藤進倶楽部会長から木村明君、勝見右君、五十嵐哲夫君らが表彰された。なお、同窓会六十一期の囲碁倶楽部からの申し入れもあり、今年には六月に合同の交流会を企画したい旨の報告があつた。



は、奉仕して下さる方々への感謝・報恩・できれば奉仕の心を研くことが求められてくるのであろう。私は、大学を定年で去つた後、それまで考えてきた「協生」をさらにしばしば喋らせて頂いているが、「協生」には、感謝・報恩・奉仕の心と、協働、連帯の行動姿勢が求められるのだと考えている。一言断つておくが、私は「共生」と言わない。「協生」である。共生は、誰かを否定する。協生には否定されるものはない。

会は五十九期「青山同期会旗」を掲げ、校歌斉唱について、物故の恩師・同期級友への黙禱を捧げた。昨年八月には安田君(陸上)、今年一月に加村君(野球)が逝ってしまった。

関根同期会代表は、「今年は西暦二千年・ミレニアムの年であるが、歴史を振り返っても千年期にも特別なことはなく、平穩に過ぎたようだから、たぶん二十世紀最後の年も平穩に過ぎるのではないだろうか。是非そろ願いたいものだ。みなさんも今年も健康に留意して元気に過ごされ、また来年も会えるように」と老年期に入った同期生を激励した。

伊佐同期会幹事からは母校の新築状況の詳細と募金状況の報告があり、五十九期の募金目標二千五百万円が達成できるよう激がとばされた。また、二十一年は我々の卒業五十周年にあたるので、全国各地にいる同期生にも幅広く呼びかけ、落成した新校舎の見学を兼ねて新潟で盛大な記念同期会を開催する予定であり、同期生誘い合わせて参加するよう呼びかけがあった。また、伊佐幹事とともに長年学年幹事としてご苦労いただいた市川君が、本業の絵の制作にもっと力を注ぎたいので、幹事の交代を申し出ているので、「この

席で新しい幹事の選出をしていただきたい」という提案があり、黒崎の宮田君が推薦され、快く引き受けてくれた。ご苦労様である。

その後、大いに飲み、ビンゴゲームに興じ、大いに語り合い盛況のうちに終わった。酒間で元新潟市民病院院長の木村君が、

## 華の60回生MUZO會

60回熊田 彰

60回生は新潟中學校の最後の入學生であるので常に最下級生(高校二年まで)であったが、仲間意識が強く、その結束は青山随一との評判もあるらしい。

私達60回生の年間行事は新年會に始まり、忘年会で終わる。當り前であるが、それを一九七〇年代から(もつと前かな?)毎年やっている事に意義があるのである。今年縁起を担いでいる譯ではないが、昨年5名も同級生が旅立ったので、我々の中で随一の人格者であり、しかも酒飲み地蔵の「法幢寺」の名僧、山崎賢隆方丈に御願いして、私は良く判らないが、曹洞宗では最高の長命祈願をしてもらった。それから村杉温泉の「長生館」で新年會をおこなったのです。(ここは良い旅館で

自らのリンパ腺腫瘍を克服した闘病の経験とその後の講演活動のために、昨年一年で百六十五回も新幹線で東京と新潟を往復したという話や、県サッカー協会副会長の木村君がワールドカップの新潟への誘致に頑張った話など、一同おおいに感銘し、かつ勇気づけられた。(広野記)

いつも新年會で御世話になっています。60回生同窓生とその奥方約四名あはせて四十数名が、大集合し「霞たなびく青山」とか「今、残星の影ゆれて」とか新中の應援歌を歌い、最後に新潟中學校校歌「玲瓏の天仰ぐ時」を斉唱して、毎年の事な



から新年會は大成功でした。我々60回生の行事は澤山あって、まず春と秋二回の60回生ゴルフ部會(會長・小林昭二、代表幹事・斎藤邦夫)のコンペティション、これは一泊二日でゴルフの終わった後、表彰式と反省會で飲むわけです。その方が大事との聲有り。

一月十五日の60回生園基クラブ(代表幹事、小山功)の年始め園基大會。これは自分でも凄いと今思うほど續いています。一年に何回もやった事が有ったので回数が多過ぎると言われるかも知れませんが、今年で四十八回になりました。今では東京在住の落合夏樹君、横浜市の長谷川信夫君などわざわざ来てくれて、嬉しいかぎりです。毎月第三土曜日にクラブ會員は青山園基クラブに集まって研鑽しています。

それからMUZO山登りの會年四回どこかの山に挑戦しているようです。昨年は富士山に

挑んで山頂までいったとのこと。でも高い山ばかりでない。60回生で山登りがしたい方はどうぞとのことです。そして、結末の源である六例會、これは六の日と稱して毎月6日に、都合の良い人達が、時

**夢像會(60回卒)**  
**ゴルフ會の**  
**活動状況について**

60回 齋藤 邦夫

我々は今年六十七歳となり、自營業者を除き殆どの者が現役を引退して悠々自適の生活をしています。

ゴルフ會の発足は、六〇七年前からと記憶していますが、毎月定期的に集まり、酒を酌み交わしながらの六例会で、自然発生的に始まりました。現在の登録メンバーは、約三十二名で東京在住が三名、メンバーの奥さんを含み女性も三名程で、年三〇四回コンペを開催しています。毎回五〜六組でプレー後、近所の旅館で表彰式及び反省検討會を兼ねて一泊し、盛大に盛り上がっています。メンバーの大多数が年金生活者であり、出来るだけ安上がり

間に關係無く来た時間に来て、歸りたい時に歸るといふ東堀前五番町の居酒屋「萬燈」に集まる會であります。いずれにせよ、事ある度に、あるいは無いときでも集まるのが華の60回生である。

約三年前からハンデ戦に切替えていますが、上位入賞者は毎回入れ替わっていますし、初心者でも和氣あいあいをモットーに、ハイハンデを高く設定しています。

- 最後に、老齡の為か、方向音痴の為かコンペ開催の都度、種々なハプニングが起こり、腹を抱えて笑ったり、後々の話の種になっている出来事を紹介します。
- ① グローブの湿気抜き穴を、破れたものと勘違いした。
  - ② 宿泊した時、夜中に忘れたゴルフシューズを取りに行つて、行方不明と大騒ぎをした。
  - ③ アイビスゴルフクラブに入る、R49号を通り過ぎ、会津坂下まで行つた。
  - ④ 日本海カントリークラブに行く心算で、中条ゴルフクラブで一時間も待った。



# 先輩方との 対抗親善囲碁大会開催

## 61回 今井(高原) 晃

第一回青山59回生対61回生対抗親善囲碁大会が平成十二年六月十七日ニュー越路で開催された。そもそもやるやうという発端はこの誰かは知らないけれど、飲んだ席で決まったようである。61回生の仲間は大橋禎助先生宅に毎週のようにおじゃまして囲碁を楽しませて貰っている。又、60回生の先輩方も過去二、三回お手合わせをして来た。

59回生の先輩の方々とは始めての対抗戦である。59回生は佐藤六段、谷六段以下、飯塚、安倍、藤由、西脇、菊池、白井、安食、小野寺、伊佐、宮田、菊池諸氏の十三名。61回生は大橋六段(旧担任、61回生の顧問格)、小杉六段以下、佐久間、野本、若林、向川、江口、今井の八名。囲碁大好き人間、そして力自慢の集まりであった。

世話役の伊佐先輩の開会の挨拶、佐藤審判長の対局上の留意事項のあと早速開始。挨拶の中に敗者チームが対抗戦の様子を青山同窓会報の原稿を執筆することといわれたことが心の片隅に残っていた。一回の対局時間



は六十分前後を目安とする。二回戦の対戦相手は各期の勝利者同士、三回戦以降もほぼ準ずることとする等…取決めもあつたが一局二時間もかかる人、三十分も掛からないで打ち上げる人、又、勝者、敗者に関係なくだれそれ構わず対局を始める人、様々な人間模様が見られた。皆、楽しそうに、なんとか勝ちに近づきたいという思いが伝わってくる。結局、十六勝十敗で先輩方の勝利に終わった。先輩に一日の長があつたのか、長幼の序がみられたのか定かではない。

囲碁大会が終われば楽しみながら

懇親会である。伊佐先輩の開会宣言、小杉君の乾杯の音頭で始まったが、早速61回生に原稿依頼の話がきた。小生○勝三敗で責任をとられ、原稿を書く羽目になってしまった。

飲むほどに酔うほどに在学時代の想い出、現今の社会情勢への憂い、囲碁にける熱意等々、話題が溢れる泉のごとく湧き出していた。次から次へと酒の追加注文あり。とうとう予算オーバー。伊佐幹事長さん、ごめんなさい。

## ラオスの匂い

### 84回 稲垣 仁

「生徒会長をやらぬか。実際の仕事は、副会長になって俺が全部やるから……」友人のTにそう言われたのは、高校二年生の時でした。

私が覚えてる唯一の仕事は、文化祭で各クラスが使う机と椅子の数を確認することでした。「すみません。生徒会長ですが、文化祭で使う机と椅子の数の確認に来ました……」

同級生で私が生徒会長だったことを覚えてる人は少ないようです。

大学卒業後、二年ほどブラブ

ゆる会合に参加している等の話もあり来年も是非やろうと衆議一決。閉会宣言は江口君。挨拶代わりに応援歌「かすみたなびく」の歌声。「船出せしより五十年、我が学び浅けれど……」心に染み入る。校歌も歌おうとの声。若林君の音頭で『玲瓏の天あぶぐ時、胸颯爽の意気に充ち……』の大合唱。万雷の拍手で来年の再開を期して散会。

一局の碁が、一杯の酒が百年の知己を得たような想いに包まれ、楽しくそして有意義な一時であった。

ラしてから、ようやく動物病院の代診になりました。そして三十五歳の時に青年海外協力隊員として、ラオスに行くことになりました。行くきつかけになったのは、妻の「いつ行くの。本当に行きたいなら行った方が良いや」という一言でした。何回か説明会には行ったことがあつたのですが、なかなか決心がつかないでいたのです。

派遣前には三ヶ月間、語学の合宿訓練があります。始めは模様には見えなかったラオ語だったのに、三ヶ月後には読み書き

し、話ができるようになっていきたので驚きです。人間やればできるものです。一生のうちであれほど勉強したことはありません。

ラオスは、まるで子供時代の新瀉のような、ところでした。私のいた町は車も少なく、街角では子供が遊び、おばさん達もいつも立ち話をしていました。

昭和三十年代の下本町のように、いつ紙芝居屋さんが現れてもおかしくないようなところでした。地元の人たちも大変のんびりした善人が多く、とても親切にしてくれました。

て来たタコ糸で、牛の帝王切開手術をやる羽目になったこともありました。日本でならいたことない私でも、その町では第一人者、困った事があつても誰にも聞かせません。自分で工夫して、何とかするしかないのです。おかげで、お金や物がなくても何とかなるという自信だけはいったような気がします。

平成九年に本町通十三番町の自宅で、動物病院を開業しました。実にさまさまな人がやってきました。ふと待合室を見ると、芸者さんと、その筋の方と、オカマさんが笑いながらお互いの犬の話をしているなんてこともあります。始めての人同士でも、まるで何年来の知り合いのような口のきき方ができる土地柄は今でも変わりません。

犬や猫も、人間と共存してのんびり生きているように感じます。下町には、ラオスと同じ匂いが流れています。

器具や薬もあまりなく、安全剃刀と鉗子一本と市場から買った。

三月二八日朝、篠田正志君の弟孝君(73回)からの電話で計報が伝えられましたが、一瞬何とこのことか理解できず、何度も聞き直しました。

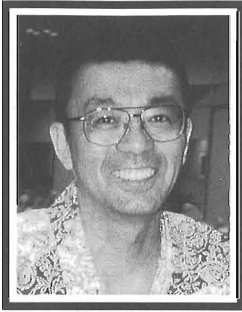
未明のドライブでの交通事故の数年前より、彼は持病の糖尿

## 71回さんばち会 事務局 篠田正志君を悼む

### 幹事長 71回 山内幹夫

三月二八日朝、篠田正志君の弟孝君(73回)からの電話で計報が伝えられましたが、一瞬何とこのことか理解できず、何度も聞き直しました。

未明のドライブでの交通事故の数年前より、彼は持病の糖尿



病の克服のためいつも早朝ウォーキングやジョギング等に励み、又気晴らしに早朝ドライブを楽しんでいた様でした。しかし、まさか……我が71回生は百十周年記念事業の募金を期独自の集金の方法をとって学校に目標額を納めたので、寄付者名簿や預金等の整理で彼と会って話し合っただけだっただったので、到底信じられないことでした。

彼には、大学卒業後修行を終えて新潟市に帰って以来、ずっと同期会の事務局長を務めて貰いどれほど助かったことか枚挙ができません。

同期会の集まりは全て彼に任せてお願いしておりました。

彼は、出欠席の定かでない仲間の面倒までも、嫌な顔一つ見せずに、取り仕切ってくれました。

正志君と私は小学校一年生から大学と修業時代を除いていつも一緒でした。

附属小中学校、新潟高等学校の同期会の会計と事務局を一手に引き受けて、幹事の私の仕事

をいつも支えてくれました。野球で言えば「バッテリー」だったね。

直球勝負の私に素晴らしいサインを送り、どんなに困ったことがあっても、相談に乗ってくれ、良いアドバイスを常にしてくれました。

これほど長いつき合いなのに私は正志君の怒った顔を一度も見ることが有りません。

短気な私をたしなめ、そして良い方向へと導いてくれました。いつも正志君の笑顔に助けら

## 教育実習雑感

### 105回 中村ともえ

五月二十九日から六月十日まで、私たちは二週間の教育実習を母校、新潟高校で過ごしました。母校での実習ということで、当初私たちにはどこか甘い考えがあったかもしれません。しかし、開講式で二週間はOB・OGとしてではなく、あくまで実習生の意識を持つように、との注意を受け、そこからは気を引き締めひとりひとりが精一杯頑張ったと思います。実習を終えた今、思うことはそれぞれでしょうが、ここでは私自身の感想を少し書きたいと思います。

いざ教壇に立って授業をしようという時、私は自分が高校時代に受けた授業のことを思い出した。実習中に見学させて頂いた先生方の授業にしてもそうですが、見る側について批判するのは簡単です。ですが、自分が授業をする側になって、あらの探しようがない完璧な授業などあり得ないと思うようになりました。ちょっととした言い回しの違いで、クラスによって全く別の反応が返って来た時。授業後の先生の注意に、私そんなこと言っただけなあ、と思う時。自分が

さほど意識せずに発した一語一句へ影響の大きさに、思わず身の縮む思いがしました。六十五分間の自分の言動を全て把握することなど、多分誰にもできません。しかし、できないながらも、できるだけは注意しなくてはならない。そして何より、その責任に萎縮してはならない。それが一番大事なことだと感じました。授業をしている時、私は四十人の目と耳に晒されています。こちらが萎縮してしまったり、不安はすぐにクラス全体に伝わってしまいます。逆に、細かいところまでは自信がなくとも、これを伝えたい、という大まかな何ものかを持って臨めば、それなりに何とかなるものだと感じました。

授業後の先生方の注意では、こんな人に指摘される欠点のある授業だったのなら、自分が思っていたより生徒に伝わっていなかったんじゃないか、と不安になることもありました。ですが、注意を受けることは必要なことでも、結局は目の前の生徒の反応が私にとって一番の根拠でした。実際、思ったより伝わっていないどころか、思った以上にしっかり生徒は受けとめていてくれました。それが実感できた時は、本当に嬉しかったです。教育実習生という物珍し

さもあったのでしようが、未熟な私たちに何とか応えようと、生徒は一生懸命注意を向けてくれたと思います。

こうまとめると本当に陳腐な感想ですが、二週間の教育実習では、何かを教えるということの楽しさと難しさを度々感じさせられました。しかし、それは空疎なものではなく、あくまで現実的な実感でした。それが

## 教育実習

### 105回 間藤冬樹

五月二十九日から六月九日の間、教育実習生として久しぶりに母校にかえってきました。私が卒業した平成九年の春から校舎の改築工事が始まったのですが、三年経って、かつて新潟高校があった敷地にとんでもない建物が建っているという印象を受けました。改築中にプレハブ校舎を見たり現在の校舎にシフトがかかっていたときの姿を見たことはあったのですが、完成した校舎を見るのは初めてだったので、大変驚きました。高校というよりむしろ何か、新しい大学のようなイメージを抱かせたという言葉がびったりでした。驚いたとともに、あの日

現実的、具体的である点が、私が教育実習で得た最大の成果だと思います。何をやるにせよ、今後の力になるものだと思います。最後にになりましたが、温かく、時に厳しく御指導下さった先生方、優しく応えてくれた生徒の皆さん、そして一緒に頑張った実習生のみんな、本当にどうもありがとうございます。

本有数の、古く趣のある校舎が懐かしく、また、それがなくなり寂しいという思いも込み上げてきました。ただ体育館など一部にその面影を残しており、そこを歩いているときには高校時代にタイムスリップしたような気がしました。その体育館も近々改築されるようですが。

私が卒業して三年。校舎も変わり、生徒達の性格・気質のよくなるものも少しだけ変わった様な気がしました。教育実習中、生徒の中ではなく、ちょっと距離を置いたところから見たせいかもしれません。良い意味でも悪い意味でも私達のいた頃よりいくぶんかおとなしくなったような気がしました。少々心配

同窓会の皆さんお元気ですか。今日は東北電力青山同窓会の集いをご紹介します。

会員は42回卒から103回卒までの総数八十六名、今回は仙台在住の熟年・壮年・青年二十二名が、初夏の香かおる五月二十三日夕刻、市内上杉・ろうふう会館に相集い、酒を飲み、応援歌をうたって母校や故郷を偲びました。

同窓会本部から特別参加頂いた60回小林副会長の母校の新校舎のお話や、67回石田幹事長の同窓会関西支部発足の経過などをお聞きし、一同母校の発展ぶりに驚き、感激しております。

## 東北電力青山同窓会

だったのですが、六月十一日の青陵祭を審査員として見させて頂いた時、それはただの心配であったことが分かりました。グラウンドが小さくなっているのにもかかわらず、パネルをはじめ、競技・応援の熱気・丈夫な声などは相変わらず圧巻でした。また、閉会式の時に来年度定年なされる石崎先生を生徒たちが胸上げするなどの粋な計らいも見せていただき、感動いたしました。

こうした青陵祭という一つのイベントを通して、新潟高校が大きく変わっていく中でも変わらないものもあることを感じました。私達が諸先輩方から受け継ぎ、後輩達に受け渡したものがこれから変わらず、時にはマイナーチェンジをしながらも続いていくてほしいものだと思います。その変らないものが、新潟高校の「伝統」というものなのではないでしょうか。

### 60回片岡 眞 36回片桐 一夫

私たちは、それぞれが企画・営業・原子力火力・土木・発送変配電・情報通信など事務・技術に渡って、広い分野を担当し



ておりますので、会員相互のコミュニケーションが、会社の発展ひいては社会への貢献に役立っているのではないかと自負しているところです。

全員での応援歌合戦のうちに予定の時間も過ぎてしまい、来年の再会を約してあたふたと別窓の才媛・74回木下眞由美さんが経営する国分町のスナック「豆や」に向かったのは云うまでもありません。

## ボート部 OB会総会 開催

新潟中学・新潟高校ボート部OB会の青山艇友会は第二十三回目の定時総会を、平成十二年三月二十五日(土)新潟市の田中ホテルで開催。青山同窓会から上村会長、新潟県ボート協会から原会長のご出席を得、元顧問大橋先生、現顧問君先生、首藤コーチ、OBを合わせまして総勢二十四名でした。遠方は高槻市、宇都宮市からの参加もありました。

来年一月から競技種目が変わるために現在高校が所有しているボートでは対応できない等の問題があり、特に慎重に審議し、母校後輩のために艇購入資金支援をいたすことの決議をいたしました。新艇で、現役選手がボート競技で心身を鍛え、実りある高校生活を送れるならばOBとしての喜びはこの上もありません。

なお、総会は砂山会長(55回)を議長として、次第のとおり進行。総会に引き続いての懇親会では、信濃川の夜景が見える部屋で大いに盛り上がり締めは部歌でお開きとなりました。

出席者名  
上村光司(同窓会長)、原 正雄(県ボート協会会長)、大橋禎助(元顧問)、君 伸一郎(現顧問)、首藤直樹(コーチ)、砂山 晃



## 青山六三会 卒業四十五周年... 予告編

「...という事で、どんな風にするか、女性代表二人も含め、十人程が集まりました。いろいろな意見、アイディアが出ます。三十周年の行形亭の時のように百名は集まって欲しいよな。」

「先輩方に見習って母校にまづ集まって、新校舎を見せて貰おう。」

「夏の総会が七月、東京青山六三会が十一月と既に決まっているから、中間の九月となりませうか。」

「やはり温泉に入りたい。」

「まだ現役の忙しい人もいるから、その日の内に帰れるようにした方がいい。」

「四十周年の鍋茶屋の時は、コの字型の宴席形式で、動き難く、話が出来なかった。向かい合ったテーブル式でいい。」

「この機会にゴルフをやりたいという声もある。」

「飲み食いだけの会でなく、発想を変えて、村山氏に講演を

やって貰う、あるいは左善氏の回顧美術展を開く。それをメインとして後で立食パーティーという形もある。その方が自由に動いて、話がしやすいかも。」

「イベントという事なら、四十五年目の修学旅行完結というのは？ 我々は学校が火事になって、京都、奈良まで行って、箱根を廻らないで引返した訳だから。昔出来なかった卒業式、結婚式をやるというのが、はやるようですか。」

「同伴者、附添い者可というのは...まだ必要ないか。」

「学校に集まるのなら記念植樹は？ 桜がいい。...等々名案、奇案続出しましたが、結局大筋、次のように決まりました。」

◇ ◇ ◇

九月十七日(日)午後三時、母校集合、新校舎見学。バスにてホテル湖畔(鳥屋野湯)へ移動。入浴。六時開宴。九時お開き。宿泊。会費は一万円。宿泊者は

- (55)、加藤高弘(58)、五十嵐研二(75)、吉田芳郎(75)、水沼治(58)、内山準之助(58)、坂上真一(78)、増井隆夫(79)、桜井隆一(60)、内山真一(60)、大田優(80)、佐藤正昭(80)、神林英男(60)、佐藤元一(62)、佐藤正浩(89)
- 勝弘(65)、笠原絃洋(68)、小町聰敏(69)、富田省一(72)、渡辺 報告者 渡辺研二(75回)

### 83回 同期会の連絡

今回、新潟県立新潟高等学校第83回（昭和50年）卒業生25周年の同期会を下記のごとく開催することにしました。前回は平成8年8月11日に21周年の同期会を開催しております。

多忙な時期ではありますが、前回惜しくも出席できなかった方も大勢いると思いますので万難を排しての参集をお願いします。

開催日：平成12年8月12日（土曜日）

午後5時より同期会総会

場所：ホテルイタリア軒 3階サンマルコ

住所：新潟市西堀通7番町

電話：025-224-5111

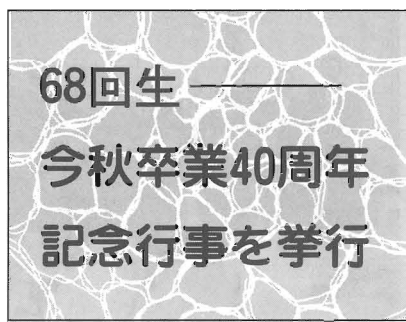
会費：1万円

幹事長：吉水 敦 E-mail: qzk13422@nifty.ne.jp

プラス三、四千円(予定)翌十八日(月)新津カントリー倶楽部にゴルフ大会。  
◇ ◇ ◇  
改めて正式案内を送りました。すが、多数の出席期待します。特に今まで、余り出ておられない方、おっくうがらずにこの際ぜひ出席して下さい。大歓迎です。

植樹、記念美術展の件は、期でやるよりも百十周年記念行事の一環として格上げご一考いただくよう提案いたします。

68回同期会では、卒業四十年を記念して、今年九月二十三日、二十四日に次の行事を行います。



- ① 三十周年記念で青山海浜公園に植樹したぐみ原の散歩
  - ② 母校新校舎にて記念シンポジウム
  - ③ イタリア軒にて懇親パーティ
  - ④ アナスタシア号で信濃川遊覧
  - ⑤ 阿賀高原ゴルフ倶楽部に記念ゴルフ大会
- なお、インターネット上に68回生のホームページを開設しました。[http://www.kiamur.asa.co.jp/aoyama68]
- 皆さん見て下さいね！

## ハイティーン水泳 新中・新高 31

### 60回 平田 大六

#### 54 国体で名古屋入り

長野から中央本線經由の夜行列車は、早朝に名古屋に着いた。一九五〇年九月二〇日だったと思う。「大六ちゃんあーん」。駅に、亡父の従兄にあたる家族が出むかえに来ていた。母が、私の水泳名古屋国体行を、事前に連絡しておいたのである。路面電車が走ってきた。

#### 回 監督は、すぐに準備してプールにゆくことを、全選手に告げた。会場は名古屋市振甫町にある振甫プールだ。宿からは、小さな峠を越して歩いていった。プールに入って、大黒監督に云われたとおりの距離と力で泳いでみる。水を完全につかみきれ

ていない。手の掌や腕から水が逃げていき、上体や腰に安定性が欠けていることがわかる。夜

の時の横浜大会以来二度目の経験だ。大六は天皇陛下の前でもハダカで居られるからいたしたもんだ、と母は私の姉たちに云っていたものだった。

私は、大会初日の高校男子四百メートル自由型予選に出場する。選手は各県から選ばれた二人づつで八十人を超える数だ。プールは九コースあるから予選は約十組。このなかからタイムで上位九人が決勝出場できるといのが国体水泳競技のしくみである。これをタイムレースという。余談になるが、選手権大会などは、予選・準決勝と着順でのぼっていった決勝出場となり、コースレースといわれている。

大黒監督があとで、発表記録で教えてくれたら、八〇数人中三〇位であった。このシーズン、私の新潟県内公式記録は、短水路(二五メートルプール)で5分12秒6。それを出してればなんとかなったかもしれない。この時、4分52秒6で地元の中京商の浅野満が優勝した。

選手は控室には、伊東高の川口友平、安房第一高の庄司嘉宏など、私が顔を知っている強豪の姿があった。強い選手ほど横柄な態度に見えたが、これは私の心が萎(い)縮していたからである。「第七(なな)のコース。平田くん。新潟県」

：水泳競技独特の声調のアナウンスコール(呼び出し)だ。つづくウォーミングアップで各自ザブンと水に入り少し泳いだ。私が一番はやくプールからあがっていた。スタート台の近くでひとりポツンと腰をおろしている。この時の私の写真が今でも残っている。私に、もう余裕というものがあったからだ。新潟県内では、私はこの夏誰にも負けない堂々たる覇者でありつづけたのに、「国体」という全国舞台では、すっかりおじけついている。

レースもみじめなものであった。5分27秒6。大黒監督があとで、発表記録で教えてくれたら、八〇数人中三〇位であった。このシーズン、私の新潟県内公式記録は、短水路(二五メートルプール)で5分12秒6。それを出してればなんとかなったかもしれない。この時、4分52秒6で地元の中京商の浅野満が優勝した。

#### 55 はじめての 全国大会で、惨敗

国体開会式は、昨年高校一年

(つづく)



# 母校は今

進路指導部が今年度新たに発行した冊子を紹介したい。進路選択資料で題名を「道しるべ」という。大学・学部への選択には己の人生観や職業観の形成がまず第一で不可欠だ、との認識から、保護者や一部同窓生に自身の職業を生徒に対して紹介してもらい、それを進路選択の参考にさせる、という狙いである。副題は「行く手はるげき人生への提言」と、憎い命名がしてある。

その作成の意図を最初に聞いたときからいいものなる予感がしたのだが、案に違わず素晴らしいものが出来あがった。定番の医者・弁護士はもちろんとして、一般的なあらゆる分野の職業が網羅されている。中には耳慣れない職業もあり、内容を読んで成程こういうことをやるのかと納得したりする。もちろん、いたずらに偉そうな職業名が並んでいるわけではなくこの冊子のいい点は、全ての保護者が自分の仕事を誇りに思っている、そのことを生徒に真摯に伝えたい、教えてあげたい、という心が出ていることなのだ。高価な製本ではなく、個々の内容量もまちまちでお世辞にも体裁

がいいとは言いがたい。が、中身はまちがいなく最高である。特別寄稿ということで、同窓生からは村山弘義前東京高検検事長と松井啓駐ブルガリア大使に文章を寄せていただいた。生徒向けであり、皆さんにお分けする冊数がないが、なにかの機会に中をのぞいて読んで頂けたらと思う。また、いずれこの冊子を更に発展・充実させる予定もあり、その際には同窓の方々からのより一層のご協力が必要になるはずで、その時にはよろしくお願いしたい。

従来本校は各種講師による講演会を盛んに行ってきた。特に、進路指導部や生徒指導部などの主導による、学年毎の講演会が中心であった。それらがそっくり視聴覚教室に移動してきたといえるのではないか。

その講師選別に少し苦労するようになつてきた。人がいないわけではない。耳が肥えてきたりでもいろいろだろうか。身近にもっと適切な講師がいるはずなのだが、と強迫観念めいた思いに駆られたりする。青山同窓会の各種の会合では片っ端から今度お願いしますと声をかけて響度を買っている。

視聴覚教室の同窓生を中心とした講演会をもう少し組織的に系統立てて運営していこうという構想はあるのだが実現にいたっていない。とにかく今のところ、声がかかったら断らずに飛んできて話をして頂きたい。話は何でもいい。面白ければそれでいいし、生徒の目を明るく未来に開かせてくれるようなら、なおさらいい。

図書館の前に今年も七夕の笹が立った。司書の熊木さんの仕掛けた。短冊が用意してあつて生徒が自由に願いを書いて吊すことができる。試験期間中なのに刻々と数が増えていって重み

で笹が本当に折れそうなくらいになつている。以外と本音を出しているのではないかと思いのぞいてみた。やはりというか残念ながらというか、成績のこと、入試のこと勉強時間のこと、背が伸びて身体が痩せて「いっぱい食べても太りませんように」。異性とは限らず、話し合える友達がいなくても多い。「一緒に帰る人がほしいです」。やはり切実な願いは出さないのか、あるいはないのか。「何も書くことない今がしあわせ」。じゃあ何も短冊を一枚無駄にしなくても、と思いつながら帰ってきた。

伊藤孝子 退職  
実習助手 渡辺静子 退職  
非常勤講師 藤木隆男 退職

通信制  
教諭 近藤 裕 新潟江南高  
本間房雄 西川竹園高  
非常勤講師 稲葉 明 退職  
佐藤悦子 退職  
田村ケイ 退職

事務  
主任 小林俊明 財務課主任  
主事 奈良靖子 砂防主事  
臨時職員 斉藤昌子 退職

全日制 転入 転入先  
校長 宮沢 稔 教育庁次長  
教頭 和田文夫 保健体育科ス

教諭 湊元弘昭 巻高  
五十嵐達郎 船江高  
五十嵐公 新潟西高  
渡辺治夫 新発田高  
竹内泰雄 巻高  
佐藤一英 新津高  
渡辺敏行 新津高  
田宮澄枝 白根高  
実習助手 佐藤博美 巻高  
非常勤講師 吉田幸策 新採用

通信制  
教諭 押木和子 西川竹園高  
福井 智 村上高  
非常勤講師 田中久夫 新採用  
登石泰幸  
渡辺信子

事務  
主任 小池輝美 新潟港湾主任

☆吉田六さえもん氏おめでとうございました。二期目の衆議院議員として、ますます活躍される事を祈念致します。  
☆渋谷氏の長文。戦中から戦後にかけて、一つの時代、師弟の交わり、師恩への感謝など、じっくりと味わって欲しいものです。  
☆元気のいい同期会、さすが60回。分科会をいろいろやっています。これが元気の元なのでしょう。卒業20周年くらいから同期会が始まる若い同窓幹事諸君、参考になりますか。  
☆期と期の対抗団基大会、楽しそうですね。いろいろな企画、新しい交流、そこから老後(?)の楽しみが生まれます。参加する事に意義あり。  
☆仙台でも青山同窓会発足の動きが。若い幹事が一生懸命に働きしてくれています。新潟、東京、関西、仙台と輪が広がります。青山健児、健女、年に一度は、お近くの会合へ、全国どこかで会いましょう。  
☆同期会、クラブOB会、趣味の会、楽しい報告、予告を事務局へお寄せください。会報は、夏、冬二回発行です。(石)

職員の変動  
(平成十二年四月)

全日制 退職 転出 転出先  
校長 青木一男 退職  
教頭 浅野 隆 水原高教頭  
教諭 藤田善思 三条工業高  
小島正芳 文書館副館長  
柳生正文 新津高  
小杉榮一 新潟西高  
稲富直人 高田北城高  
魅澤祐一 高校教育課指  
村田慶朗 五泉高定時制  
教頭

伊藤孝子 退職  
渡辺静子 退職  
藤木隆男 退職  
近藤 裕 新潟江南高  
西川竹園高  
稲葉 明 退職  
佐藤悦子 退職  
田村ケイ 退職  
小林俊明 財務課主任  
奈良靖子 砂防主事  
斉藤昌子 退職  
宮沢 稔 教育庁次長  
和田文夫 保健体育科ス  
湊元弘昭 巻高  
五十嵐達郎 船江高  
五十嵐公 新潟西高  
渡辺治夫 新発田高  
竹内泰雄 巻高  
佐藤一英 新津高  
渡辺敏行 新津高  
田宮澄枝 白根高  
佐藤博美 巻高  
吉田幸策 新採用  
押木和子 西川竹園高  
福井 智 村上高  
田中久夫 新採用  
登石泰幸  
渡辺信子  
小池輝美 新潟港湾主任

主事 鈴木美智子 下越教育主事

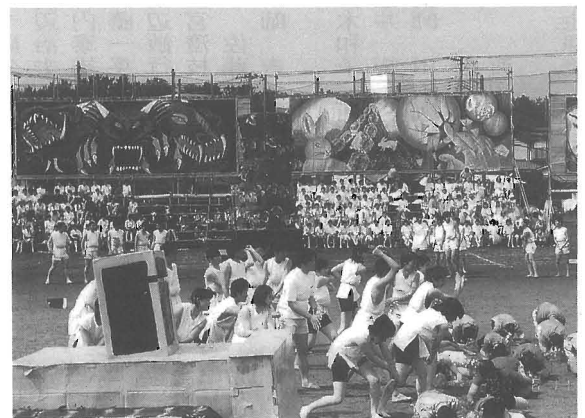
## 編集後記

☆吉田六さえもん氏おめでとうございました。二期目の衆議院議員として、ますます活躍される事を祈念致します。  
☆渋谷氏の長文。戦中から戦後にかけて、一つの時代、師弟の交わり、師恩への感謝など、じっくりと味わって欲しいものです。  
☆元気のいい同期会、さすが60回。分科会をいろいろやっています。これが元気の元なのでしょう。卒業20周年くらいから同期会が始まる若い同窓幹事諸君、参考になりますか。  
☆期と期の対抗団基大会、楽しそうですね。いろいろな企画、新しい交流、そこから老後(?)の楽しみが生まれます。参加する事に意義あり。  
☆仙台でも青山同窓会発足の動きが。若い幹事が一生懸命に働きしてくれています。新潟、東京、関西、仙台と輪が広がります。青山健児、健女、年に一度は、お近くの会合へ、全国どこかで会いましょう。  
☆同期会、クラブOB会、趣味の会、楽しい報告、予告を事務局へお寄せください。会報は、夏、冬二回発行です。(石)

## 後 輩 の 活 躍

### 運 動 部

1. 陸上競技部
  - 男子フィールド 3位
  - 男子走り幅跳び 1位 藤田靖浩
  - 三段跳び 1位 藤田靖浩
  - 女子3000M 4位 尾崎絵梨奈
  - 以上 北信越大会出場
  - 男子4×400R 7位 金子・飯島・長澤・市村
  - 棒高跳び 7位 罇陽介
  - 砲丸投げ 7位 大島薫
2. 空手道部
  - 男子団体形 2位
  - 個人形 2位 中山義章 (インターハイ出場)
  - 女子団体形 3位
  - 以上 北信越大会出場
3. 柔道部
  - 男子団体ベスト16
  - 個人 -52kg級 1位 美濃川理矢子 北信越大会出場権獲得  
(全日本女子柔道大会と同一日程のため全日本に出場)
4. フェンシング部
  - 男子団体 2位
  - フルーレ 2位 丹後翔太 北信越・全国大会出場
  - 3位 松田泰明 北信越大会出場
  - 女子団体 1位 北信越・全国大会出場
  - フルーレ 1位 伊藤佳世 北信越・全国大会出場
  - 2位 小原美奈子 //
  - 3位 長谷川美峰子 北信越大会出場
5. ソフトテニス部
  - 男子団体 2位 北信越大会出場
  - 女子団体 2回戦
6. 弓道部
  - 男子団体 3位 北信越大会出場
7. ボート部
  - 男子4× 2位 北信越大会出場
  - KF 1位・3位
  - 男子総合 2位
  - 女子2× 4位 北信越大会出場
  - KF 3位
8. テニス部
  - 女子シングルス3位 庄司有里 北信越・全国大会出場
  - 男子団体 3回戦
  - 女子団体 2回戦
9. 登山部
  - 男子 優秀校 北信越大会出場
10. 野球部
  - 春季県大会 ベスト8
11. サッカー部
  - 3回戦
12. ラグビー部
  - 3位
13. バレーボール部
  - 男子 3回戦
  - 女子 2回戦
14. バスケットボール部
  - 男子 2回戦
  - 女子 3回戦
15. 剣道部
  - 男子団体 ベスト8
  - 女子団体 予選リーグ敗退
16. バドミントン部
  - 男子団体 3回戦 石橋・松崎ペア 大家・濁川ペア ベスト8
  - シングルス 石橋 ベスト8
  - 女子団体 2回戦



# 後 輩 の 活 躍

## 文 化 部

放送部 ラジオ・ドキュメント部門 1位  
 テレビ・ドキュメント部門 2位  
 朗読部門 筒井晴香 2位  
 以上 全国大会出場

将棋同好会 男子団体 1位 (遠山雅樹・五井嘉明・河野隆之)  
 女子団体 1位 (籠島可奈・窪瑠子・杉山知子)  
 個人 2位 佐藤由香里

囲碁部 男子団体 1位 (内藤 亮・月岡深志・遠山雅樹)  
 女子団体 1位 (藤沢茉莉子・田辺小百合・田辺由美子)  
 以上 全国囲碁選手権に出場

内藤 亮・藤沢茉莉子・田辺小百合 3名 全国高校総合文化祭静岡大会出場



## 平成11年度青山同窓会会費納入者追加分

(12月下旬より3月までに納入のもの)

納入先:

郵便振替口座 00659-7-4455 青山同窓会

31回 T13年	濱 博 世	横 山 芳 郎	川 崎 孝 夫	68回 S35年	桜 井 廉 則	福 原 等
石 井 祝	広 川 弘	58年 S25年	白 井 僖 夫	阿 部 尚 武	篠 田 孝	村 田 光 男
38回 S6年	本 田 正 胤	小 林 一 男	二階堂 修	大 橋 昌 徳	樋 熊 節 子	79回 S46年
中 野 総 司	50回 S18年	佐 藤 俊 彦	西 名 英 輔	高 見 潔	藤 島 隆 一 郎	猪 股 裕 紀 洋
39回 S7年	片 岡 信 二	田 野 茂 光	西 村 允 允	69回 S36年	74回 S41回	神 林 裕
山 下 八 郎	竹 田 忠 夫	中 川 弘	油 本 暢 勇	大 森 ゆ かり	石 原 法 子	鈴 木 正 昭
41回 S9年	根 本 洋 一	波 田 野 松 重	早 川 勉	桑 原 秀 夫	伊 藤 宏	土 田 進
鎌 原 保 之	藤 井 義 良	59回 S26年	平 野 恒 夫	佐 藤 彬	岡 村 康 生	80回 S47年
眞 島 繹 四 郎	51回 S19年	高 橋 勇 藏	64回 S31年	清 水 一 男	奥 寺 淳 子	横 尾 和 儀
42回 S10年	市 村 堯	藤 田 八 郎	伊 藤 勝 広	城 田 敬 子	小 林 洋	岩 橋 浩 司
東 城 真 佐 男	鹿 野 重	山 田 和 雄	太 田 健 治	高 杉 昭 二	木 村 正 昭	81回 S48年
43回 S11年	花 井 省 次	60回 S27年	佐 藤 茂 司	田 中 正 人	関 憲 一 郎	片 桐 裕 則
里 見 義 忠	52回 S20年	高 橋 明 男	椎 名 睦 郎	寺 尾 芳 樹	関 口 賢 太 郎	坂 井 浩
富 所 近 己	小 嶋 嘉 彦	千 葉 潤	村 山 俊	富 所 忠 男	小 原 俊 雄	村 山 裕
山 谷 隆 二	村 山 玄 二 郎	富 山 和 夫	65回 S32年	山 下 菊 夫	75回 S42年	82回 S49年
44回 S12年	森 重 郎	外 山 照 夫	大 崎 一 治	鈴 木 喜 典	有 園 順 子	荒 井 誠
小 山 得 二 郎	湯 木 昭 二 朗	小 石 光 夫	川 合 英 次	70回 S37年	若 佐 則 雄	石 崎 清 子
錦 織 登 美	53回 S20年	難 波 正 彦	北 村 剛	小 嶋 桂 吾	小 柳 幹 夫	83回 S50年
45回 S13年	佐 藤 辰 夫	61回 S28年	城 田 勝 司	笠 原 尚	笠 井 忠	川 名 正 博
小 原 稔	佐 藤 良 策	阿 部 徳 次 郎	村 木 利 夫	高 橋 達 三	松ヶ谷 正 道	窪 田 久
知 野 正	高 橋 勝 彦	川 田 賢 一	山 田 誠 之 輔	辻 保 亨	多 賀 美 代 藏	高 橋 克 人
圓 山 哲 四 郎	野 瀬 寛 次	62回 S29回	66回 S33年	中 村 啓 二	福 田 実 修	松 本 和 彦
46回 S14年	三 野 昭 三	青 木 留 藏	青 木 忠 允	本 間 重 紀	三 富 修	宮 野 由 貴 子
稲 野 藤 三 郎	54回 S21年	安 達 正 平	神 田 征 輝	71回 S38年	武 藤 芳 郎	84回 S51年
君 正 男	55回 S22年	五 十 嵐 昭 雄	佐 々 木 紀 美 子	阿 部 裕 一	小 原 克 己	朝 倉 仁 樹
新 田 公 淳	川 井 和 夫	石 崎 富 士 臣	坪 井 清 碩	石 橋 達 弥	増 我 正 男	85回 S52年
福 島 弘	小 島 健 一	池 田 昌 之	廣 田 哲 也	上 杉 健 吾	76回 S43年	大 野 茂
47回 S15年	笹 谷 哲 也	太 田 杜 夫	松 澤 孝	佐 藤 禮 子	大 野 繁	86回 S53年
杉 山 弘 治	千 葉 繁 治	近 藤 琢 也	吉 田 弘 郎	高 橋 豊	鈴 木 茂 夫	白 倉 俊 隆
48回 S16年	守 口 一 郎	鈴 木 勉	吉 田 六 左 工 門	野 沢 坦	中 俣 正 美	87回 S54年
伊 藤 正 太 郎	56回 S23年	滝 沢 寿 美 子	67回 S34年	萩 野 真 太 郎	村 山 ひ ろ み	井 上 智
櫛 藤 純 一	57回 S24年	山 川 廣 之	小 川 宏	広 野 義 隆	吉 岡 俊	本 多 剛
斎 藤 力	上 田 宏	中 川 洋 吉	小 野 勝 義	矢 田 悦 子	77回 S44年	88回 S55年
宮 崎 心 一	岡 村 安 一 郎	星 野 隆 夫	北 場 勝 也	72回 S39年	後 藤 明	新 保 亮
山 口 素 夫	清 野 誠 二	63回 S30年	斉 藤 久 美 子	荒 川 幸 夫	杉 崎 眞 実 子	89回 S56年
49回 S17年	指 宿 叡	居 城 正 二	清 水 雄 伍	石 田 庄	永 井 恵 一	桑 名 謙 治
江 間 正 二 郎	丸 山 昭 三 郎	小 原 和 子	松 井 哲 久	73回 S40年	長 谷 川 次 郎	93回 S60年
滝 沢 信 義	山 田 幸 輝	加 野 英 資	杉 山 直 久	小 林 桂 子	78回 S45年	城 田 和 美

